



セイタカアワダチソウ

撮 影 日：令和3年10月30日

撮影場所：秋田市 農道沿い

目次

生産現場情報：加工品開発に挑戦する「農事組合法人 田高」・・・P 1～2
営農支援情報：高密度播種苗にも効果を発揮する箱施用剤・・・P 3
県 外 情 報：秋田県産青果物を首都圏でPR中・・・P 4
ご 紹 介：①令和3年産秋田県産あきたこまち県内外に出荷開始！・・・P 5
②JAグループ秋田「あきたこまち」新テレビCM&WEB限定
ムービー放映中！～WEB放映から2週間で36万回突破！～・・・P 6
③京急あきたフェア2021・・・P 7
④秋田米新品種「サキホコレ」いよいよ出荷～秋田県知事へ報告・・・P 8
⑤秋田県産椎茸・長ねぎトップセールス
～出荷最盛期を前にリモートでPR・・・P 9～10
⑥東北地区JA店舗ディスプレイコンテスト2021・・・P 11

加工品開発に挑戦する「農事組合法人 田高」

1. 法人設立の経緯

由利本荘市の沿岸南部の旧西目町において水稻を基幹に大豆及びタマネギ等の農作物を生産しているのが「農事組合法人 田高（たこう）」です。

国の農業経営安定対策（品目横断的経営安定対策）が平成19年4月から導入されましたが、田高集落ではいち早く平成17年8月に集落営農組織を発足させ、平成20年3月には法人化に移行しています。



代表 齊藤 善行さん

設立：平成20年3月

代表：齊藤 善行

構成：27戸（令和3年現在）

所在地：由利本荘市西目町西目字大西目657

2. 経営の概要等

現在（令和3年）、約46ha超の農地で水稻26.6ha（うち直播栽培0.5ha）、大豆18.5ha、タマネギ1.1haのほか、ミニトマト0.1ha（ハウス6棟、350坪）、セリ0.07ha（ハウス）の複合経営を展開しています。

水稻作では「ひとめぼれ」と「萌えみのり」、大豆作では「リュウホウ」を栽培しています。

タマネギは学校給食向けとして栽培を開始しましたが、現在は岩城、象潟地区等の法人及びJAとも連携して安定的な出荷・取引の拡大に努めるなど、新たにスーパーや飲食店等の取引先も増えてきています。

ミニトマトはJA出荷の他に、一部を直売所向け等に袋詰めして販売しています。



袋詰めされたミニトマト

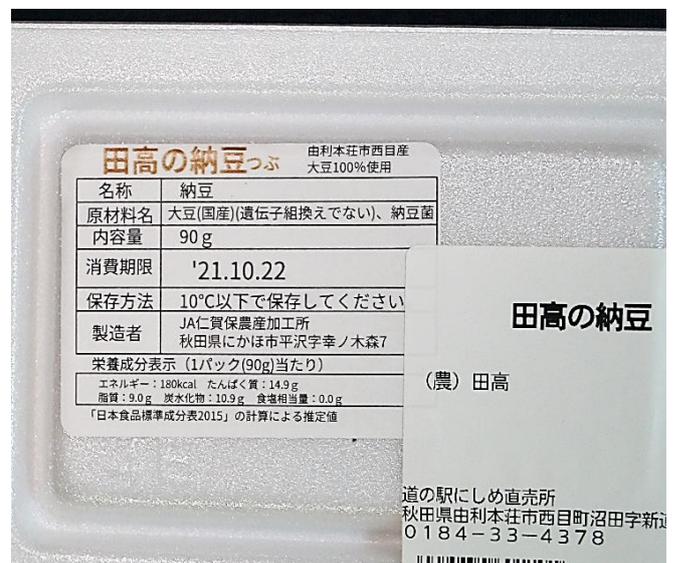


たわわに実るミニトマト



ハウス団地

(農) 田高では、安全・安心の農産物生産のほか、6次化商品の開発にも取り組んでおり、ミニトマトの「ドライ」や「パウダー」商品を開発して直売所やスーパーでの試験的な販売を始めています。大豆についてもJA加工所へ委託して「田高の納豆」(つぶ)を製造し、周年的に毎週50~60パックペースで直売所で販売しています。



田高の納豆(つぶ)

3. 今後に向けて

昨年からのコロナ禍の影響で米消費の減退に拍車がかかり、米価(概算金)の引き下げなどで先行き不透明な状況下にあります。経営の多角化に向けて、新たな加工商品の開発構想などへの想いを膨らませています。



高密度播種苗にも効果を発揮する箱施用剤

1 経営体当たりの水稻栽培面積が年々増加してきており、育苗作業時間の増大、育苗ハウスや育苗箱等の資材確保が問題となってきています。その対応策として直播栽培や疎植栽培などが実施されていますが、近年は育苗箱1箱当たり230～300g（通常100～150g）播種して、田植え時の苗掻き取り幅を小さくして必要箱数を減らす高密度播種苗（密播苗、密苗）が徐々に増えてきています。

一方、水稻の移植栽培におけるいもち病やイネミズゾウムシ等に対する病虫害防除法のひとつとして育苗箱施用剤が広く普及してきています。多くの箱施用剤は登録上の農薬施用量が1箱当たり50gであることから、高密度播種苗（密播苗、密苗）による移植栽培では本田での面積当たりの農薬施用量が少なくなり、防除効果が低下するリスクがあります。

このため、Za・あぐりふぉーむVol. 20（2021年10月5日発行）の生産現場情報で「農事組合法人 強首ファーム」の使用例について少し触れましたが、高密度播種苗（密播苗、密苗）にも高い適用性を示すヨーバルトップ箱粒剤についてご紹介します。

ヨーバルトップ箱粒剤（右写真）は、水稻初期害虫のイネミズゾウムシ・イネドロオウムシやチョウ目害虫のニカメイチュウ等の主要害虫に加えて、いもち病等にも安定した効果を発揮する薬剤です。1箱当たり75g使用で、播種前に床土または覆土に混和、あるいは播種時から田植え当日に育苗箱に均一散布します。



※詳しくは、バイエルクロップサイエンス（株）のホームページ（<https://cropscience.bayer.jp/>）をご覧ください。

消費地販売事務所レポート（園芸）

～秋田県産青果物を首都圏でPR中～

ヴェルジェ秋田県産青果物フェア



10月2日、3日ファーマーズマーケットヴェルジェにて秋田県産青果物の試食販売および推奨販売を実施（千葉県津田沼店、埼玉県大宮店・越谷店）

国産菌床PR店舗の設置



埼玉県上尾市ヤオヒロ東店にて国産菌床のPR店舗を設置。10月14日より1ヶ月間の取組予定。

SNSを利用した秋田県産椎茸キャンペーン



Instagramを利用し、秋田県産椎茸のプロモーションを実施。163件の投稿を行い、約357,000リーチ数となりました。※リーチ数とは投稿された記事やアカウントを見たユーザー数のこと

各品目とも潤沢な入荷量により販売苦戦、今後の気温低下による鍋需要に期待！

【量販店動向】

■ 10月前半については、目ぼしい品目が全て安値基調で動いているため量販店においても売り込み商材に苦慮する状態となっています。関東においては10月に入ってから気温が30度近い日が続き、通常の秋商材（ねぎ、白菜、菌茸類）の売れ行きは鈍かったが、10月後半に入りようやく気温も低下し、動きが見られるようになっていきます。「ねぎ」についてもバラ売りから3本束へ商材変更の動きが見られ、末端需要の拡大とともに取扱量増の見込みです。

【業務需要】

■ 10月に入り、緊急事態宣言は解除したものの、営業時間短縮や会食の自粛により業務需要の回復はまだ見られません。不透明な需要動向の中、軟調相場も影響し、業者においては契約仕入を減らし相場買いでの原料調達を増やしている動きも見られます。

令和3年産秋田県産あきたこまち県内外に出荷開始！



テープカットの様子

写真左から：JA全農あきた 小林和久県本部長、運営委員会斉藤一志会長、佐藤英一副本部長

10月1日、JA全農あきた精米センターで「令和3年産新米初出荷セレモニー」を開催しました。式典では、JA全農あきたの関係者によるドライバーへの花束贈呈やテープカットが行われた後、中京圏へ出荷される新米「あきたこまち」12トンを載せたトラックを見送りました。今年は、5月の低温や6月から8月までの高温・多照など記録的な気象条件で経過しましたが、生産者の努力により品質は良好です。炊き上がりも適度なツヤ、粘りがあり、平年と比較しても良食味に仕上がっています。JA全農あきたの斉藤一志会長は「生産者の弛まない栽培管理のおかげで大変良い米の出来になった。ぜひとも皆さんにたくさん買って食べていただきたい」と話しました。

【新米品質データ】（JA全農あきた精米センターの分析より）

- ①白度は39.0～41.0で平年並み
- ②胚芽残存率は、15.0～18.0%で平年並み
- ③粉状質粒・砕粒は平年並み
- ④食味は、成分分析器、炊飯食味計、官能テストの結果、炊飯米の艶、粘りは適度にあり、「あきたこまち」の特性であるもちもち感も高く、平年と比較しても良食味。



米穀部 パールライス課 ☎018-845-8000

JAグループ秋田「あきたこまち」

新テレビCM&WEB限定ムービー放映中！

～WEB放映から2週間で36万回突破！～



今年の新CMは、昨年のCMコンセプト「これまでも、これからも秋田米」を引き継ぎ、「あきたこまち」がこれからも愛されるお米ブランドであり続けること、「秋田米」という産地自体がブランド化することを目指しています。

新CMのキャラクターも、昨年に引き続き、秋田県出身女優の「安田聖愛」さんを起用。安田さん演じる主人公がコロナ禍の東京で社会人として働くなか、秋田に住む祖母から宅配便が届くというストーリー。今を生きる人たちが感じている心情に寄り添いながら、日本の米どころ秋田への郷愁が沁み入るような仕上がりとなっています。

また、同時制作されたWEB限定ムービーでは、15秒のCMで伝えきれなかった祖母からの手紙の内容や、コロナ禍での制限された生活と、「あきたこまち」を通してよみがえる、ひとり訪れた秋田との思い出が交差する5分半の動画になっています。



詳しくはこちらをご覧ください

↓↓↓



これまでも
これからも
秋田米

特設キャンペーンサイトURL
<https://akitanoukagohan.jp/>

米穀部 米穀販売課 ☎018-845-8040





京急あきたフェア2021



今年で13年目を迎えた「京急あきたフェア」。今年も昨年に引き続きコロナ禍で活動が制限され、生産地・消費地ともに“ウィズコロナ”体制で取り組んでいます。

このプロジェクトは、京急グループのみなさんがお米の生産過程を知り、また実際に農業体験をすることで、食の大切さや農業に対する理解を深め、日々の業務にいかしてもらおうと企画されたものです。

毎年京急社員が来県し、体験することが恒例の5月の田植え、9月の稲刈りイベントは、圃場をお借りしている農事組合法人「北川目ファーム」をはじめ、JA秋田おぼこ、JA全農あきた職員で行いました。

来県が叶わなかった京急社員の皆さんに、少しでもお米の栽培に触れてほしいとの思いから京急グループ施設内での「バケツ稲」栽培を提案し、米穀部事務所前でも同時に栽培を開始。生育状況を公式Instagram「美人を育てる秋田米」で毎週発信しました。



京急あきたフェアでは、大曲農業高校との新たな切り口での連携とPRの機会を創出することを目的に、大曲農業高校生を対象とした「おにぎりの“具”レシピコンテスト」を開催しました。応募総数52レシピの中から、「京急電鉄賞」「京急ストア賞」「JA全農あきた賞」を選定し、それぞれを商品化。フェア期間中に販売しました。

京急ストア・もともちユニオンで販売
新米を味わう！あきたおにぎりセット
○いぶりがっこチーズおにぎり
○味どうらくの里おかかおにぎり



羽田空港で販売

空の！あきたおにぎりセット

- ツナイぶりがっこおにぎり
- たけのこしめじの炊込みおにぎり
- 焼肉のタレで炒めた牛肉
- いぶりがっこクリームチーズ

JA全農あきた賞はJA秋田おぼこが運営する直売所「しゅしゅえっとまるしえ」で販売しました！

しったげうめえ！大農生コラボおにぎり弁当

- スタミナおにぎり
- ※秋田産の野菜をピリ辛中華風に仕上げました！
- 大葉のみそおにぎり
- ※秋田のみそたんぽをおにぎりに！
- 大葉でアクセント！



米穀部 米穀販売課 ☎018-845-8040

秋田米新品種「サキホコレ」いよいよ出荷～秋田県知事へ報告



写真左から) J A全農あきた 小林県本部長・J A秋田ふるさとサキホコレ生産団体 柴田会長・佐竹秋田県知事・J A秋田中央会 斉藤会長・秋田県主食集荷商業協同組合 渡邊第一理事

秋田米新品種「サキホコレ」が11月6日(土)から先行販売されるのを前に、10月26日に秋田県庁で、J A秋田中央会の斉藤一志会長やJ A全農あきたの小林和久県本部長、J A秋田ふるさとサキホコレ生産団体の柴田康孝会長、秋田県主食集荷商業協同組合の渡邊與志秀第一理事が、今年産の「サキホコレ」の作柄などを佐竹敬久秋田県知事へ報告しました。

J A秋田中央会の斉藤会長は「8月初旬までの高温による影響も見られず、収量・品質ともに良好」と説明しました。生産者代表の柴田会長は「一生懸命作った。最高の出来栄なのでたくさんの人に食べてほしい」と話しました。また、J A全農あきたの小林県本部長は出荷に向けた準備状況について、「先行販売に向けて集荷・出荷のピークを迎えている。県内外からの問い合わせが多く寄せられており、改めて米どころ秋田、『サキホコレ』への期待を実感している。生産者が手塩にかけて作った『サキホコレ』を多くの方に食べてもらえるよう努める」と話しました。

「サキホコレ」を事前に試食した佐竹知事は「食感がいい。お米の甘さがじわっと出てくる」と食味に太鼓判を押しました。

プレデビューの令和3年産の「サキホコレ」は、11月6日から県内外での販売を予定しています。

なお、6日には、東京会場の銀座三越新館、秋田会場のイオンモール秋田でそれぞれキックオフイベントが開催されます。

また、13日・14日には、秋田市、能代市、大仙市でサンプル米の配布などを行う予定です。



秋田県産椎茸・長ねぎトップセールス～出荷最盛期を前にリモートでPR

あきた園芸戦略対策協議会（事務局：JA全農あきた）は10月7日、これから出荷最盛期を迎える県産椎茸と長ねぎのトップセールスを行いました。

リモートでおこなわれたトップセールスは、秋田市の会場と京浜地区の各事業所をつなぎ、JAや生産者の代表のほか、秋田県、JA全農あきたの関係者が京浜地区中央卸売市場9社で作る「京浜秋田会」の代表に向けてPRしました。



あきた園芸戦略対策協議会の小原正彦会長は「県産シイタケは肉厚でボリューム感があり、鍋や煮物、焼き物、炒め物にも最適な食材。長ねぎは太くて柔らかくツヤがあり、とろけるような味わいとシャキシャキとした歯触りが特長」とそれぞれの魅力をPRしたほか、「皆様のご期待に沿えるよう安定供給につとめるので、秋田の販売棚確保のためどんどん売り込んでいただきたい」と呼びかけました。



産地代表者からのメッセージとして、JA秋田ふるさときのご総合部会の佐藤宏和総合部会長は、「品質の高位平準化や周年安定供給に取り組み、昨年以上に高品質な椎茸を消費者に届けられるよう、また選ばれるよう生産努力をしていく。引き続き有利安定販売をよろしくお願ひしたい」と話しました。

また、JAあきた白神ねぎ部会の大塚和浩部長は、「秋冬ねぎも太く甘く出来上がってきている。白神ねぎをはじめ秋田のねぎはピカピカ光ったツヤ、とろけるような味覚、シャキシャキとした歯触りが自慢。他産地に負けないようなねぎを作っていくので、秋田のねぎをよろしくお願ひしたい」と話しました。



市場関係者からは、「高品質で顧客からの評価も高い」「生産拡大と安定出荷をお願いしたい」「年末の最需要期に向けて引き続き有利販売につとめる」といった声が聞かれました。

本県産椎茸は、京浜地区中央卸売市場への出荷量・販売額・販売単価が、令和元年度から2年連続で全国トップとなる「販売三冠王V2」を達成しています。

また、長ねぎの販売額も年々増加しており、令和2年度には26億5千万円と、あきた園芸戦略対策協議会が平成30年度に設定した目標販売額25億円を上回っています。

園芸畜産部 園芸課 ☎018-864-2491



東北地区 J A 店舗ディスプレイコンテスト 2021

J A 全農は、東北管内の店舗が参加できる東北地区 J A 店舗ディスプレイコンテスト 2021 を開催しました。コンテストを通して J A 資材店舗における商品提案力、陳列技術のレベルアップを目指し、組合員の需要喚起を促進し、売り上げ向上に結びつけることを目的に開催され、東北 6 県の 85 店舗（27 J A）が参加しました。秋田県からは 7 店舗（3 J A）がエントリーし、レジ前部門で J A 秋田ふるさと 大雄営農センターが金賞、テーマ別部門で J A 秋田なまはげの雄和グリーンセンターが金賞、若美グリーンセンターが銅賞を受賞しました。



金
賞

レジ前部門

J A 秋田ふるさと
大雄営農センター



【審査ポイント】

レジ前でお客様に気づきや発見を与え「ついで買い」「気づき」を誘発する演出ができています。



金
賞

テーマ別陳列部門

J A 秋田なまはげ
雄和グリーンセンター



【審査のポイント】

テーマを訴求した独自性、売り場陳列方法や P O P を用いたオリジナルティのある演出ができています。

生産資材部 肥料農薬推進課 ☎018-880-1624

Za・あぐりふおーむ
Zennoh-akita agriculture+reform

JA全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふおーむ
第21号 令和3年11月5日発行

編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒010-8558秋田市八橋南2丁目10番16号 018-864-2462